

公民館・図書館機能の充実

現状と課題

公民館・図書館は、市民の生涯学習の機会や場を提供する生涯学習推進の拠点として、地域における人々の交流の場として利用され、社会教育の振興に努めています。

本市は、公民館をおおむね中学校区ごとに1館を目標に整備し、心豊かな人間形成、住みよい地域づくりを進めてきました。

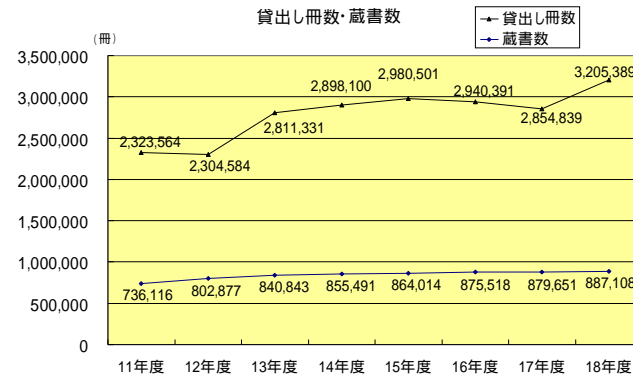
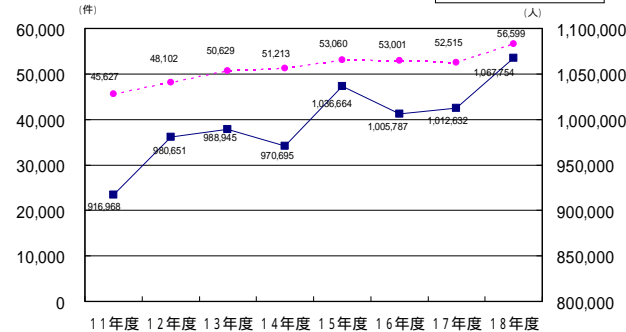
本市は、中央図書館を核として北部、鳴尾、北口の各拠点館、5つの図書館分室を有し、阪神間でもトップクラスの図書館サービスを提供しています。

各図書館では、市民の読書活動を推進するため各種事業の展開や開館時間の延長などの利便性向上に努めてきました。

高齢化や子育て世代の増加など、社会の変化に対応した社会教育施設の運営が求められています。



公民館利用状況



基本方針

生涯学習社会の実現にとって重要な拠点施設である公民館、図書館の機能充実を図るとともに、青少年世代、子育て世代、団塊の世代などさまざまな世代の利用を想定した講座や居場所作りに取り組んでいきます。

主要な施策展開

(1) 公民館事業の充実

学校園等や民間企業、ボランティア等との連携を深め、多様化する社会の要請や市民の学習ニーズに即応した講座の実施や情報の発信に努めます。また、インターネットによる予約システムの整備や公民館使用基準の緩和などに取り組み、利用者の視点に立った運営を図ります。

(2) 図書館サービスの充実

図書資料の収集・情報発信機能や集会行事の充実を図るとともに、利用者が求めている資料を的確に提供できるように、レファレンス(調査・相談)機能の強化を図ります。また、子どもから大人まで誰もが利用しやすい図書館を目指します。

(3) 読書活動の推進

学校図書館との連携、各図書館でのおはなし会やおはなしボランティアの養成・派遣などを通じ、子どもたちが読書に慣れ親しむことのできる環境作りに取り組みます。また、大学図書館や近隣都市の図書館と連携し、市民の読書活動を支援します。

市民一人ひとりの活動

施設や図書資料などを市民共有の資源として活用し、自律した学習を行う。

まちづくり指標

< 指標の考え方 >

様々な世代が利用しやすい地域密着型の公民館、図書館の実現度を測る指標として、本計画期間においては、公民館の利用人数の増加と図書館の貸し出し冊数の増加を重点指標に位置付けます。

重点	指標名	単位	現状値(H18)	目標値(H30)	指標方向
	公民館延べ利用人数	千人	1,067	1,428	▲
		式	全公民館の利用者人数		
H30目標値の設定理由		市民一人あたりの利用回数を2回から3回を目標に設定			
	市民1人当たりの貸し出し冊数(図書館)	冊	6.8	7.3	▲
		式	貸出し冊数/人口		
H30目標値の設定理由		50万冊程度の貸し出し冊数の増加を目標に設定			
	図書館の蔵書数	千冊	887.0	948.6	▲
		式	図書館全館の蔵書合計		
H30目標値の設定理由		山口分室開室、中央図書館書庫・北口図書館開架に配架可能数			

主な部門別計画

西宮市子ども読書活動推進計画

【教育委員会：平成20年10月～】